

No. (01) 平成 30 年度 地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業成果報告書

| | | | |
|-------------|--|-----------------------------|------------------|
| 事業名称 | 表現により繋がる地域の活力創造事業 | | |
| 実行委員会 | アートによる対話を考える実行委員会 | | |
| 中核館 | アーツ前橋 | | |
| | 住所 | 〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16 | |
| | TEL | 027-230-1144 | FAX 027-232-2016 |
| | ホームページ | http://artsmaebashi.jp/ | |
| 構成団体 | 群馬大学、前橋市教育委員会、前橋文学館 | | |
| 事業開始時点の課題分析 | <p>前橋市においては、外国人技能実習生の受入など外国人住民の割合が加速度的に増加しています。不登校・ひきこもり児童等への対応では、ODS（オープン・ドア・システム）という生徒が不登校になることを未然に防ぐ独自のシステムをとっているが、依然 20 代までの若者の自殺率が他県に比べて高い傾向にあります。間近に迫った団塊世代の 2025 年問題では、車社会の弊害でもある独居老人の孤立など、かつてないほど社会の構造や価値観は多様化・複雑化し地域の中に潜在的な「生きづらさ」を抱える人口も増えています。ある種の生きづらさを抱える人々は一般社会に包摂されず、「社会の中の個人」や「社会そのもの」に焦点が当てられていないこと、そして、地域社会における個々の構成員が繋がり、包摂されるための基盤が十分に整備されていないことが現下の問題であると認識しています。</p> <p>上記の問題に対応するために文化施設が果たす役割は、対面型のコミュニケーションの場の提供であり、コミュニケーションの反復により「自己肯定感の回復の機会」と、他者と共生する「コミュニティ形成の機会」を創出することが、社会包摂を促進し地域社会という共同体の抱えるリスクを低減させる重要な要素となると考えています。本事業はそうした「場の創出」を実現するために社会的境遇や世代を超えて表現がどのように人々に寄り添えるのかを市内の教育現場、高齢者施設、不登校や引きこもりの経験のある若者のためのフリースペース、母子生活支援施設等との協働を通じて検証し、コーディネーターとなる人材育成を図り、長期プログラムとして実施していきます。</p> | | |
| 事業目的 | <p>本事業では、現代社会の中で生きづらさを感じる人たちに、アート（アーティスト）が、そして芸術文化施設が僅かでも他者とのコミュニケーションのきっかけを提供できればと考えています。アーティストと地域の人々の協働による表現活動を通じて、展示を作ったり、人と人、人と場所が出会うワークショップなどを実施します。そうしたアウトリーチ事業を通じて地域社会の抱える社会課題をリサーチし、難民や技能実習生、外国人労働者の問題、性差別やドメスティック・バイオレンスの対象となり社会復帰に困難を抱えるシングルマザー、社会とのコミュニケーションに困難を抱えるゆえに社会生活が難しい引きこもりなどの問題に光を当てることで、これらの課題を美術館におけるインリーチ事業に繋げ、地域住民を巻き込みながら、問題意識を共有する場を創出することで、市民が「自分とは異なる他者」の存在を自分ごととして考えられるような機会を設けます。</p> <p>また、未来の地域の担い手である児童・生徒たちとアーティストとの交流を通して、文化・芸術との接点を創出し、関心や理解を高め、将来の文化・芸術の担い手や鑑賞者の育成を目指します。アーティストが市内の学校に通い、学校にある魅力を通じて交流することで、そこから新たに学校、日常、社会について共に考え、発見していくプロジェクトを</p> | | |

| | |
|----------------------------|--|
| | <p>実施します。必ずしも美術や図工の教科のみを対象とせず、他教科や多分野などとも連携しながらプログラムをコーディネートし実施することで、地域の中での専門的な人材の育成を目指します。</p> <p>以上を踏まえて、地域の関係機関が連携し社会包摂を推進していくための体制を構築していこうとするものです。</p> |
| <p>事業概要</p> | <p>【多様な活動の充実】</p> <p>①引きこもり経験のある若者達の自立支援プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休館日を利用したミュージアム体験など自宅やフリースペース以外での活動を支援。 <p>②特別養護老人ホームでのセッション形式のワークショッププログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者との打楽器演奏や踊りなどの身体表現を通じた体験型交流プログラム <p>③母子生活支援施設入所者の交流プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内母子生活支援施設でのワークショップ等を通じ入所者同士や学生等との交流を促進。 <p>④市営住宅団地での新たなコミュニティ形成プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アーティストを仲介役として小学生とその学区内にある市営団地でワークショップ等を実施し、高齢者や外国人世帯などコミュニティ内で孤立しがちな人々との対話の機会を創出。 <p>【専門人材の育成・確保】</p> <p>①アーティスト・イン・スクールプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のアートNPOがコーディネートを担いながらアーティストを学校に派遣し生徒たちと制作活動を行う。教科は美術や図工に限らず文化施設での発表なども視野に入れ活動。 <p>【地域の文化施設等との連携】</p> <p>① 上記の 5 事業をまとめ各機関の連携により一体的な社会包摂を検討するためのシンポジウム等の開催</p> |
| <p>区分</p> | <p>(1) 地域の歴史，地域の有形無形の文化財との連携，地域の人材交流</p> <p><input type="checkbox"/>ア 地域の文化財の魅力発信</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 専門人材の育成・確保</p> <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施</p> <p><input type="checkbox"/>イ 美術館・歴史博物館クラスター（集積地）としての広報活動</p> |
| <p>実施項目 ・ 実施体系</p> | <p>1 地域の歴史，地域の有形無形の文化財との連携，地域の人材交流</p> <p>(1) 子ども・高齢者・障害者・外国人に向けた多様な活動の充実（福祉施設等でのアウトリーチプログラム）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加アーティストとのスケジュール等検討会議の開催 ② 体験プログラムの広報 ③ 体験プログラムの実施 ④ 評価のためのデータ収集 |

| | |
|----------------------------|---|
| <p>実施項目 ・ 実施体系</p> | <p>(2) 専門人材の育成・確保 (小・中学校へのアーティストと派遣プログラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 受け入れ先となる学校の選定 ② 地域のコーディネーターによるアーティスト選定 ③ 地域のコーディネーターによる学校との調整 ④ 生徒との共同制作の実施 ⑤ 評価のためのデータ収集 <p>(3) 美術館・博物館の情報発信機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① アーティスト・イン・スクール報告書の発行 ② 体験プログラムの特設WEBサイトでの情報発信 |
| <p>実施後の 成果・効果等</p> | <p>今年度における多様な活動の充実としては、体験プログラムとして、引きこもり経験のある若者支援 NPO「NPO 法人ぐんま若者応援ネット アリスの広場」、高齢者施設「特別養護老人ホームえいめい(社会福祉法人清水の会)」、母子生活支援施設「のぞみの家(社会福祉法人上毛愛隣者)」、「南橘団地(南橘団地自治会)」の4団体と協働しました。上毛愛隣社の「のぞみの家」事業においては、増田煉瓦株式会社からの協賛により、自社製品やスタッフを提供する形でのワークショップが実現するなどの民間企業とのタイアップが出来ました。</p> <p>専門人材の育成・確保に対しては、地域のアート NPO、群馬大学の学生と協働し、アーティスト・イン・スクールを実施しました。今年度は5校(小学校3校、中学校2校)で実施することができ、初年度としては大きな成果を得ることができました。本事業を実施していくうえで、関係者への意見聴取を行い、現場レベルの教師たちのあいだでは文化施策との協働を求める声が多いことを実感しました。地域資源の活用という点で、二つの中学校の中の余裕教室に対して、アーティストを交えた学校・生徒たちとの対話を通じ、学校の中に展示空間を制作することで、生徒たちの主体的な発表の場となるなど、校内における主体的な学びの場となるほか地域へ開く学校の拠点として今後も活用をしていくことへつながっています。小学校においては、滞在制作事業で前橋を訪れたインドネシア出身のアーティストが講師となり、直近で起こったインドネシアのスラウェシ島地震に際し、現地の人たちへの励ましのイラストやテキストを製作し、アーティストが制作の様子や生徒たちのメッセージを撮影し現地に届けました。単発のワークショップながら学校の中から国を超えた他者を思うスケールの大きなプログラムとなりました。教育現場では、様々な事象を統合的に見つめる力の養成が課題となっていますが、その点においてアートが果たす役割の大きさを実感するものとなりました。本年度の事業のうち二つの学校でのプログラムが、第59回関東甲信越静地区造形教育研究大会において、公開授業やパネル展示で事例紹介される予定です。</p> <p>美術館・博物館の情報発信機能の強化としては、本事業のテーマに即したシンポジウム、勉強会等を関係者や関係機関の交流、事業の振り返りの場として実施しました。また、日本福祉医療設備学会といった、美術以外の団体から講演依頼を受けるなど、関心を持ってもらうことができました。</p> |

【事業実績】

【多様な活動の充実】

この事業は「表現の森」という事業で、今年度は、引きこもり経験のある若者支援の NPO 法人、高齢者施設、母子生活支援施設、地域団体と協働して4つのプログラムを実施しました。



(1) 「NPO 法人ぐんま若者応援ネット アリスの広場」

×

滝沢 達史 (アーティスト)

アリスの広場は、ひきこもり経験者でもある佐藤真人によって2014年に前橋市内にオープンしたフリースペースです。ひきこもりを脱しても、学校や社会へ行くことに困難を感じる若者たちが、自宅とは異なる外出先として利用しています。アーティスト・滝沢達史は、「アリスの広場」の若者たちと様々な協働プログラムを行っています。その一環として、アーツ前橋の企画展を休館日にゆっくりと若者たちに鑑賞してもらう「ゆったりアーツ」を実施しています。

【参加者の声】

集団行動や、他人とのコミュニケーションが苦手な私にとって、『適度な距離感』が許されるゆったりアーツはとても居心地が良いです。

私は普段、家に引きこもりがちです。アリスの広場とゆったりアーツは、私にとっての第2の引きこもり場所であり、でも社会とは完全に切り離されてない（もしかしたら、ここから社会と繋がれるかも？）ちょっと希望の見える場所なのかなと、開館日に訪れるゆったりアーツを経験して、そうぼんやりと感じました。

(表現の森特設サイトより/参加者Mさんのテキスト・抜粋)



(2) 「特別養護老人ホームえいめい(社会福祉法人清水の会)」

×

石坂 亥士 (神楽太鼓奏者) ・山賀 ざくろ (ダンサー)

神楽太鼓奏者の石坂亥士とダンサーの山賀ざくろは、音や身体表現の即興ワークショップを通じて清水の会 えいめいの利用者と交流しています。特別養護老人ホームに活動の場とし、継続的にワークショップを行ないながら、高齢者とアーティストの協働の可能性を探ります。また、アートのワークショップと福祉のレクリエーション、それぞれが目指すことの相違点や共通点を再考するプログラムです。今年度は4回のワークショップを実施し、入所中の高齢者の方たちとのセッションを行いました。

【参加者のご家族の声】

○施設に入所している中で、変化を持たせるために良いと思っています。

○参加者にはいい刺激になっていいと思います。継続して実施していただけたらありがたいです。

(入所者の参加者のご家族向けに実施したアンケートより抜粋)

| | |
|---|--|
| <p>※入所中の母子の情報保護のため、画像は非公開とさせていただきます。</p> | <p>(3)「のぞみの家（社会福祉法人上毛愛隣者）」 × 廣瀬 智央（アーティスト）・後藤 朋美（アーティスト）</p> |
| <p>このプログラムでは、前橋市内の母子生活支援施設「のぞみの家」の子どもたちとイタリア在住のアーティスト・広瀬智央と手紙のやりとりを通じてワークショップを行ったり、前橋在住のアーティスト・後藤朋美と日々の交流を通じて、彼らの生きる現在を表現に繋げ、16年後に開封されるタイムカプセルに詰め込みます。今年度はイタリア在住の廣瀬から指示書を受け取る形で子供たちがイタリアと日本にある食材、日本にあってイタリアにない食材など思い思いの食材を選びメニュー作りから準備を進め、ピザを作りを通じて交流するというプログラムを実施しました。前橋市内で煉瓦石窯の製造を中心に事業展開されている増田煉瓦株式会社さんがプログラムに賛同してくださり、石窯の提供やスタッフの方々の派遣をしてくださいました。多くの人に支えられたプログラムは子どもたちにとっても大変楽しい1日となったようです。ほかにも入所中の子どもたちがお母さんに向けて手紙を書いて、その思いを「心の花」という形で表現するワークショップなど複数の交流プログラムが実施されました。16年という月日の中でプログラムが継続されることにより、こうした日々の心の機微の蓄積は人と人との関係性をどのように変化させていくのか。長期間にわたるアートプロジェクトの可能性を探っています。</p> <p>【ピザ作りのワークショップに参加者の感想】</p> <p>○焼きたてのピッツァは約7年ぶりくらいに店内で食べたのが最後だった気がしてます。庭での焼きたてのピッツァは幸せな気持ちになりました。</p> <p>○とちゅうだったけど、じぶんでつくったピザはだいすきなのがいっぱいおいしかったです。</p> <p style="text-align: right;">（プログラム実施後のアンケートカードより・抜粋）</p> | |

| | |
|--|--|
|  | <p>(4)「南橋団地（南橋団地子ども育成会）」 × 中島 佑太（アーティスト）</p> |
| <p>中島佑太は、子どもの想像力や本来的に持っている表現を引き出すワークショップの実践経験をもとに、中島が5歳まで育った南橋団地の住人たちを対象にプロジェクトを行います。1960年代から建ちはじめた南橋団地は、全国各地の団地が抱える少子高齢化などの社会問題も存在します。団地が持つ住環境の特性をワークショップや人々との交流を通じて見つめることで、団地の中に存在する「他者の視線」や「不可視の境界」、また団地の中の人の往来や美術館と南橋団地の行き来の問題から「移動」することをテーマに考えます。今年度は、群馬大学の学生に運営スタッフとして携わってもらったほか、南橋団地子ども育成会のご協力もあり、「おまつり工場」と題し、お祭りの中でお祭りを作る趣旨のワークショップを開催したほか、年度末には「題名のないワークショップ」として子どもたちの発想に任せた作品制作など年間4回のプログラムを実施しました。たくさん子どもたちや保護者が参加して団地の中に世代を超えたコミュニケーションが生まれました。</p> <p>【参加した学生スタッフの声】</p> <p>今回のワークショップはテーマの縛りがなく、逆に自由すぎて手が動くのかなって最初は思っていたのですが、子ども達はすぐに行動に移り、材料を予想もしない風に作品に活用していて、驚きを感じるが多かったです。また、ディ</p> | |

スクを手にとって、そこに絵を描いていた子の「一度はこういう事やってみたかった」という言葉がとても印象的で、普段やれないような事を図工や制作の場でやってみるといことは、子どもにとって本当に楽しい瞬間ではないのかと感じました。今回のようにテーマの縛りがなかったからこそ分かったこととして、誰一人同じものを作っていない、それでも個人個人が楽しそうであったのを目にし、小さいうちの図画工作の時間はやる事を縛らないことも必要なのではないかと考えさせられました。

(群馬大学教育学部美術専攻 1年 高草木音子)

(表現の森特設サイトより)

【専門人材の育成・確保】

(アーティスト・イン・スクール)

地域のアート NPO や群馬大学と協働して、小・中学校へアーティストを派遣する「アーティスト・イン・スクール」事業を5校で実施しました。



(1)「桃井小学校」

×

イルワン・アーメット&ティタ・サリナ

インドネシア・ジャカルタを拠点として活動するイルワンとティタは社会問題をテーマに作品を制作しています。AISの直前2018年9月にインドネシア・スラウェシ島沖で発生したM7.4の大地震を受けて、桃井小学校の2年生が絵や映像を通して、現地の子どもたちが元気になるメッセージを表現する活動を行いました。災害の映像や写真を通して日本とインドネシアの地理的な共通点、人を思いやる気持ちを学びました。小学生が描いた絵や撮影した映像はアーティストによってインドネシアに届けられ、インドネシアの子どもたちから返事が届く予定です。

【先生たちの声】

子どもたちがのびのびと絵を描いたり、インドネシアのことを深く考えたりしていた姿は私たちにとって新しい発見でした。普段、学校現場ではこういった経験をなかなかさせられないので参加できてとても良かったです。(2年吉野先生、大山先生、町田先生)

【子どもたちの声】

- ・ 絵が上手だねって言われてすごくうれしかった。
- ・ 布の中から描くのが楽しかった。
- ・ インドネシアに行ったことがないから、いつか行ってみたい。



(2)「桃川小学校」

×

中島 佑太

本プログラムでは、アーティスト独自の視点や考え方を活かして教員の補助や児童の支援を行いました。本年度は給食の時間、休み時間、特別活動など、児童の日常生活にもアーティストが参加し、対話やコミュニケーションを行ったことが特徴です。学校外のワークショップを含め、アーティストが児童と幅広く・長期的に関わり、子どもや先生方、保護者の方々と信頼関係を築いています。アーティストの介在により児童・保護者・教員の関係性が豊かに変容し、学校教育や図工の新たな展開や価値を生み出すことが期待されます。

【先生たちの声】

中島さんが授業へ入ることで、この子たちはこんな風に人と関わるんだという発見がありましたし、彼らの選ぶ色や思いつくアイデアが変わっていているとも感じます。授業で同じ道具・教材を使っているとどうしても型にはまってしまうのですが、もっと自由でいいんだ、と中島さんから教えてもらっています。

(5年 高橋綾子先生)

図工専科ではない立場で図工を教えなければいけないときに、上手くいかないなあと思っていたことが多かったのですが、自分では思いもつかないアドバイスを中島さんからいただけるので助かります。教員とは全然違う立場の人が学校に入ることは子どもたちの価値観を拓げる意味でもとても重要だと思っています。

(4年 加藤織乃先生)

【子どもたちの声】

版画の授業のとき、いろいろな彫り方を教えてくれたので試してみると、イメージ通りのものができてうれしかった。やさしくていい人。また来てほしい。(4年生)

中島さんが学校に来てくれてうれしい。南橘団地のワークショップは何回も参加しているけど、学校にいる中島さんはワークショップの時の中島さんとは違って見える。中島さんは子どものことが好きだと思う。

(5年生)



(3)「東中学校」、「わかば小学校」、「第六中学校」

×

住中 浩史

小学校と中学校それぞれの余裕教室に、先生と相談しながら展示や表現を行うことができる空間を提案し制作しました。学校に突然現れた真っ白で非日常的な空間は、違和感と可能性を刺激する装置。先生のもつアイデアや子どもたちの表現をその空間が受け止めて拡張することで、子どもたちの自主的で多様な学習の場として、そしてそれぞれの学校の文化を発信する場として自由な空間は発展していきます。



東中学校「ずっと仮名の美術館」

これまで実現できなかった生徒作品をまとめて展示できる空間を、教室の半分を使って制作しました。全校生徒による公募と投票で、名称は「ずっと仮名の美術館」に決定。作品展示の場のほか、生徒の主体的で多様な学びの場として活用されていく予定です。

【先生の声】

「ずっと仮名の美術館」という名称は、最終選考に残った5つの候補の中で、生徒の半数から支持されて決定しました。「ずっと仮名の」とつくことで多様な可能性を担保できるものになりました。制作にも生徒が関われば良かったのですが、今後は生徒が主体となって気軽に表現の場として利用できればと思います。

(東中学校3年 小菅智志先生)



わかば小学校「わかば美術館」

図工室の教室壁面を白く塗装し、展示台や可動壁として利用できるオリジナルユニットを制作。教材、近隣中学校の生徒作品、アーツ前橋企画展と連動した児童作品の展示など、日々の学習と地域がつながる「わかば美術館」が誕生しました。

【先生の声】

「北校舎3階に2部屋の図工室。そのうちの1つがアーティストの手により「わかば美術館」として再構築された。昼休みに集い、また教師に引率され鑑賞に訪れる。運用を開始すると、新しい刺激が新しい子どもたちや教師の動き

に結びついてきた。 learning が activate に、そして面白くなってきた。

(わかば小学校 4年 相良浩先生)



第六中学校「美術部×カオスギャラリー」

昨年度、美術部の生徒と一緒に制作し美術室近くの廊下に設置された「カオスギャラリー」。ここで、3～4人ずつのグループがそれぞれ自由な発想で展示を開催しました。アーティストは定期的に部活へ通って制作のサポートを行い、交流を深めました。

【地域の文化施設等との連携】



関係者を交えたシンポジウム、勉強会

先に、ご報告した事業の関係者を集めた振り返りの場として、勉強会などを行いました。多様な担い手によって実施されている複数の事業が今後どのように関連していくのか、関係者との積極的な意見交換を交わすことで次年度の展開も含めた認識の確認の場となりました。画像は、アーティストの山本高之さんをゲストに行った勉強会の様子です。

今年度の事業は、WEBや報告書という形でも公開し情報発信をしています。各事業の詳細は、以下のURLよりご覧いただけます。

【表現の森特設サイト】

<https://www.artsmaebashi.jp/FoE/>

【平成30年度アーティスト・イン・スクール（報告）】

<https://www.artsmaebashi.jp/?p=11933>